

2006年度の消化器科のスタッフは4月から12月まで常勤医師2名。1月から3月まで常勤医師1名。マンパワーの不足は外科医師3名の応援により何とか補ってきた。外来診療は週3回行った。また、肝臓外来を済生会熊本病院から出向の医師が週1回担当した。

昨年度よりマンパワーがやや増えた分、診断・治療内視鏡件数ともに増加した。特にERCP、内視鏡的止血術、PEG造設件数が顕著に増加した。

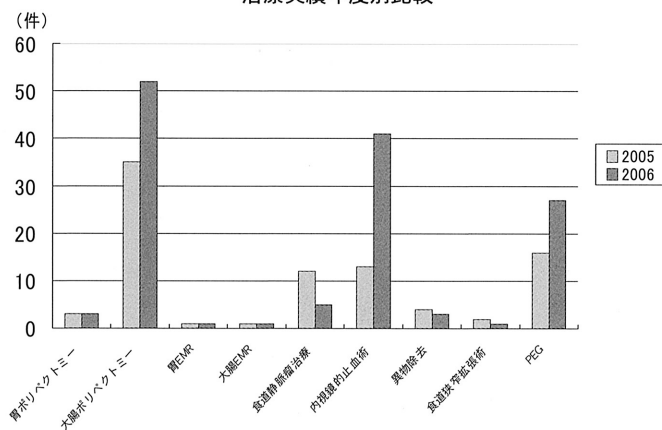
診断実績 (件)

	2005	2006
上部消化管	1,280	1,243
下部消化管	430	478
ERCP	6	32
EUS	4	1
腹部超音波	1,941	2,061

治療実績 (件)

	2005	2006
胃ポリペクトミー	3	3
大腸ポリペクトミー	35	52
胃 EMR(内視鏡的粘膜切除術)	1	1
大腸 EMR(内視鏡的粘膜切除術)	1	1
食道静脈瘤治療 (EVL,EIS,APC)	12	5
内視鏡的止血術	13	41
異物除去	4	3
食道狭窄拡張術	2	1
PEG 造設	16	27

治療実績年度別比較



入院患者の受け持ちは平均10名～25名。マンパワーの不足した1月～3月は特に大変であった。大腸ポリープ、急性腸炎、出血性胃十二指腸潰瘍などの症例が多かったが、消化器全般多岐にわたり、消化器以外の内科疾患も多く担当した。

主な消化器疾患症例数(入院) (例)

逆流性食道炎	3
マロリー・ワイス症候群	2
食道静脈瘤	2
食道癌	2
胃ポリープ	2
胃腺腫	1
胃癌	6
胃生検後出血	1
出血性胃十二指腸潰瘍	23
胃悪性リンパ腫	1
十二指腸癌	1
小腸出血	2
大腸ポリープ	36
大腸癌	2
大腸憩室出血	4
急性腸炎	30
潰瘍性大腸炎	2
大腸クローン病	1
イレウス	8
虚血性大腸炎	4
消化管アミロイドーシス	1
肝障害	5
急性肝炎	3
C型慢性肝炎	7
自己免疫性肝炎	1
原発性胆汁性肝硬変	1
肝硬変	12
肝臓癌	12
胆嚢・胆管炎	9
総胆管結石	9
胆嚢癌	2
胆管癌	10
総胆管癌	1
急性膵炎	4
膵臓癌	2
その他	194